

EU Indicators

発表日: 2020年1月22日(水)

欧州経済指標コメント: 1月英国労働統計

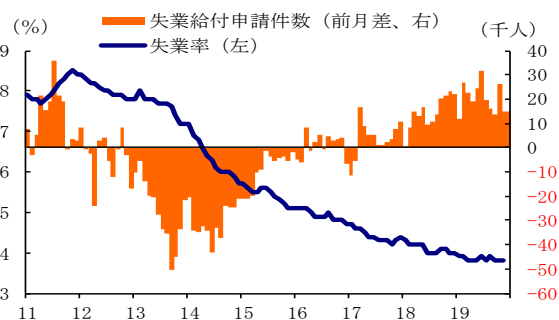
～予防的利下げか、離脱後の景気指標を確認するか、それが問題だ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

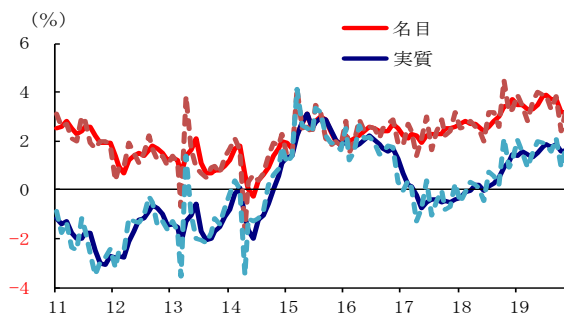
- 21日に発表された労働力調査ベースの英国の失業率は、昨年11月から遡って3ヶ月の移動平均値で3.8%と前月から不変。昨年春以降、3.8~3.9%で推移しており、40数年振りの低水準にある。単月の失業率は、新たに計算に加わった11月値が3.96%と同一サンプルの8月値(3.79%)から僅かに上昇したが、これは主に労働参加率の上昇によるもの。同月の就業者数は前月比で+10.0万人、同一サンプルの3ヶ月前比で+20.8万人に大きく加速(前月の3ヶ月前比は+2.4万人)。正社員を中心に就業者数の堅調な増加が続いている。
- 全産業の週当たり賃金(賞与を含む)は、11月から遡って3ヶ月の移動平均で前年比+3.2%と前月から不変。単月の振れが大きい賞与を除くベースでは、前月:同+3.5%→今月:同+3.4%と僅かに上昇率が鈍化。昨年6・7月の同+3.9%をピークに賃金上昇率は鈍っているが、その間の物価上昇率も鈍化しており、実質ベースの賃金上昇率はほぼ不変。
- BOE高官のハト派発言と指標下振れを受け、30日のMPCでの利下げ観測が高まっているが、雇用・所得環境が底堅さを維持していることが確認。労働統計を遅行指標と捉えるか、景気指標の落ち込みを先行き不透明感に起因した一時的なものとして捉えるかは判断が分かれるところ。やはり24日発表の1月のPMIがどの程度反発するかが、利下げを占ううえで重要となりそうだ。

■英国: 失業率と失業給付申請件数



出所: 英国統計局

■英国: 週当たり賃金・賞与(全産業、前年比)



注: 実線は3ヶ月移動平均値

出所: 英国統計局

■英国の失業給付・平均賃金

	2019											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
失業率(失業給付、%)	2.8	2.9	3.0	3.0	3.1	3.2	3.2	3.3	3.3	3.4	3.4	3.5
失業給付件数(前月差、千人)	12.1	26.8	22.6	19.1	24.5	31.4	19.7	16.3	13.5	26.4	15.0	14.8
失業率(労働力調査、%)	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8	—
(単月の失業率、%)	3.94	3.76	3.75	4.00	3.62	4.05	3.74	3.79	3.97	3.52	3.96	—
就業者数(前月差、千人)	222	179	100	32	28	114	31	-56	-58	24	208	—
週当たり賃金(産業計、前年比、%)	3.5	3.5	3.3	3.3	3.5	3.8	3.9	3.7	3.7	3.2	3.2	—
賃金	3.5	3.4	3.3	3.4	3.6	3.9	3.9	3.8	3.6	3.5	3.4	—
ボーナス	2.3	4.8	4.1	1.9	3.1	3.9	5.4	1.9	4.2	-3.8	-1.8	—

注: 労働力調査基準の失業率、就業者数、週当たり賃金は当月で終わる3ヶ月移動平均 出所: 英国統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

